

エコアクション21

2017年度 環境経営レポート

(対象期間：2017年6月1日～2018年5月31日)

2018年7月31日発行



目次

第1章 組織の概要	2
第2章 対象範囲	2
第3章 環境経営方針	3
第4章 環境経営目標とその実績	4～8
第5章 環境経営計画の内容 と 環境経営計画の取組結果の評価, 2018年度の取組内容	8～11
第6章 実施体制	12
第7章 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反, 訴訟等の有無	13
第8章 代表者による全体評価と見直しの結果	14



第1章 組織の概要

本社工場

No	項目	内容	
1	事業所名および 代表者氏名	株式会社 ピーシーエヌ 本社工場 技術統括取締役 北上 俊憲 (E A 2 1 代表)	
2	所在地	〒952-0212 新潟県佐渡市宮川 1 0 7 番地 1	
3	環境管理責任者氏名 および担当者連絡先	環境管理責任者	製造部 部長 若林 英則
		担当者	製造部 部長 若林 英則
		連絡先	TEL 0 2 5 9 - 6 6 - 3 1 1 0 FAX 0 2 5 9 - 6 6 - 3 1 5 1
4	事業活動の内容	固定抵抗器及び計測機器の設計・開発並びにその製造	
5	事業の規模	製品出荷数量	599,042 個 (2017 年度)
		従業員数	30 名
		述べ床面積	1,018.2 m ²
6	問い合わせ先	ホームページ	http://www.pcn.co.jp/
		メールアドレス	wakabayasi@pcn.co.jp

相模原支店

No	項目	内容	
1	事業所名および 代表者氏名	株式会社 ピーシーエヌ 代表取締役 社長 宮崎 泰治	
2	所在地	〒252-0231 神奈川県相模原市中央区相模原 4 丁目 3 番 1 7 号	
3	担当者連絡先	担当者	営業部 販売管理課 課長 鶴沼 智春
		連絡先	TEL 0 4 2 - 7 7 6 - 0 9 3 1 FAX 0 4 2 - 7 7 6 - 0 9 4 0 E-mail : sales@pcn.co.jp
4	事業活動の内容	固定抵抗器及び計測機器等の販売	
5	事業の規模	製品販売数量	464,144 個 (2017 年度) …転売品のみ
		従業員数	11 名
		述べ床面積	148.1 m ²

第2章 対象範囲

全組織，全活動。

第3章 環境経営方針

環境方針

1. 株式会社 ピーシーエヌは、環境保全が最重要課題の1つであることを認識し、抵抗器・計測器の製造及び販売を中心とした事業活動において、「佐渡の空、トキよふたび甦れ」を夢に佐渡の自然環境を愛する企業として、継続的に環境改善に努めます。
2. 環境への取組の基本的方向を以下に示します。
 - 1) 二酸化炭素排出量を削減します。
 - 2) 廃棄物を削減します。
 - 3) 水使用量を維持管理します。
 - 4) 紙使用量を維持管理します。
 - 5) 購入品のグリーン調達を推進します。
 - 6) 化学物質使用量を維持管理します。
 - 7) 環境負荷に配慮した製品を生産及び販売します。
3. 事業活動において関連法規を順守します。

この環境方針を全員に周知し、一般にも公開します。



制定2007年 8月30日
改定2017年 6月28日
株式会社 ピーシーエヌ
技術統括取締役 北上 俊憲

第4章 環境経営目標とその実績

1. 2015年度～2017年度の環境負荷の実績

1.1 全社

No	項目	単位	2015年度	2016年度	2017年度
1)	二酸化炭素排出量（総量） 二酸化炭素の排出係数(工場:0.571kg-CO ₂ /kWh) (支店:0.505kg-CO ₂ /kWh)	kg-CO ₂	87,739	84,138	95,229
	(出荷個数当たり)	kg-CO ₂ /個	0.057	0.037	0.090
2)	廃棄物排出量（総量）	t	3.60	3.56	4.60
	(出荷個数当たり)	g/個	2.336	1.571	4.357
3)	水資源投入量（人数当たり）	m ³ /人数	8.285	8.562	8.864
4)	コピー用紙使用量（総量）	kg	493.36	460.69	437.04

※ 二酸化炭素の排出係数は、2016年度(41期)より、平成27年11月30日環境省発表の「平成26年度実績-電気事業者別排出係数」の実排出係数に基づき、本社工場は東北電力0.571(kg-CO₂/kWh)、相模原支店は東京電力の0.505(kg-CO₂/kWh)で計算した値としています。
比較の為、2015年度の二酸化炭素排出量を上記の排出係数で再計算しております。

1.2 本社工場

No	項目	単位	2015年度	2016年度	2017年度
1)	二酸化炭素排出量（総量） 二酸化炭素の排出係数(工場:0.571kg-CO ₂ /kWh)	kg-CO ₂	78,411	74,358	85,616
	(出荷個数当たり)	kg-CO ₂ /個	0.139	0.147	0.143
2)	廃棄物排出量（総量）	t	2.27	2.35	2.24
	(出荷個数当たり)	g/個	2.318	4.662	3.599
3)	水資源投入量（人数当たり）	m ³ /人数	8.19	8.72	8.75
4)	コピー用紙使用量（総量）	kg	246.93	241.88	234.61

1.3 相模原支店

No	項目	単位	2015年度	2016年度	2017年度
1)	二酸化炭素排出量（総量） 二酸化炭素の排出係数(支店:0.505kg-CO ₂ /kWh)	kg-CO ₂	9,328	9,780	9,613
	(出荷個数当たり)	kg-CO ₂ /個	0.010	0.006	0.021
2)	廃棄物排出量（総量）	t	1.34	1.21	2.36
	(出荷個数当たり)	g/個	2.267	0.685	5.337
3)	水資源投入量（人数当たり）	m ³ /人数	8.69	8.09	9.20
4)	コピー用紙使用量（総量）	kg	246.43	218.81	238.43

2. 基準値と2017年度の環境経営目標と実績

二酸化炭素の排出係数 (工場:0.571kg-CO₂/kWh)
(支店:0.505kg-CO₂/kWh)

2.1 全社

No	項目	基準値	目標 実績	2016年度	2017年度	2018年度
1)	二酸化炭素排出量の削減(総量) ※1	2015年度実績値	目標	86,861 kg-CO ₂ (-1%)	85,984 kg-CO ₂ (-2%)	85,107 kg-CO ₂ (-3%)
		87,739 kg-CO ₂	実績	84,138 kg-CO ₂ (-4.1%)	95,229 kg-CO ₂ (+8.5%)	—
2)	廃棄物の削減 (出荷個数当たり)	2015年度実績値	目標	2.324 g/個 (-0.5%)	2.313 g/個 (-1.0%)	2.301 g/個 (-1.5%)
		2.336 g/個	実績	1.571 g/個 (-32.7%)	4.357 g/個 (+86.5%)	—
3)	水使用量の維持 (人数当たり) ※2	2014年度以前の計画値	目標	8.568 m ³ /人数 (0%)	8.568 m ³ /人数 (0%)	8.568 m ³ /人数 (0%)
		8.568 m ³ /人数	実績	8.562 m ³ /人数 (-0.07%)	8.864 m ³ /人数 (+3.45%)	—
4)	コピー用紙使用量の維持(総量)	2015年度実績値	目標	493.36 kg (0%)	493.36 kg (0%)	493.36 kg (0%)
		493.36 kg	実績	460.69 kg (-6.6%)	473.04 kg (-4.1%)	—
5)	グリーン購入の推進 (古紙含有紙使用率の向上) ※3	2015年度実績値	目標	96.5% (+0.5ポイント)	99.5% (+3.5ポイント)	99.6% (+3.6ポイント)
		96.0% (使用率)	実績	99.4% (+3.4ポイント)	98.5% (+2.5ポイント)	—
6)	化学物質使用量の削減目標(有機溶剤使用量の維持) (出荷個数当たり) ※4	2015年度実績値	目標	0.6521g/個 (0%)	0.7397g/個 (+13.43%)	0.7397g/個 (+13.43%)
		0.6521g/個	実績	0.7397/個 (+13.4%)	0.7212/個 (+10.6%)	—
7)	生産工程の不良率を低減し廃棄物を削減(SOC管理の体制を維持) ※5	2015年度不良率削減実績値	目標	0.190%	0.180%	0.170%
		0.197%	実績	0.179%	0.169%	—

※1 二酸化炭素排出量の削減(総量)

2016年度(41期)より、平成27年11月30日環境省発表の「-平成26年度実績-電気事業者別排出係数」の実排出係数に基づき、本社工場は東北電力の0.571(kg-CO₂/kWh)、相模原支店は東京電力の0.505(kg-CO₂/kWh)で計算した値とします。

※2 水使用量の維持

42期(2017年度)の全社計画値は、40期(2015年度)実績の維持としますが、部門の目標値は41期(2016年度)実績値とします。

※3 グリーン購入の推進(古紙含有紙使用)

42期(2017年度)の計画値は、41期(2015年度)の実績が計画値を大幅に超えたため、42期(2017年度)の計画値を上方修正し、99.5%とします。

※4 化学物質使用量の削減推進

42期(2017年度)は洗浄を必要とする生産品がさらに増加し、生産数の増加も見込まれることから、42期(2017年度)の計画値は41期(2016年度)実績値に変更します。

※5 自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する配慮(対応件数) (RoHS指令対応件数) 活動の結果、対象が2製品のみとなった。この2製品は特殊な製品の為、RoHS指令対応を実施せず、材料切れをもって生産中止とする事から、新たな環境目標(生産工程の不良率を低減し廃棄物を削減)に取り組む事にしました。(ISO9001 品質目標に連動)

2.2 本社工場

二酸化炭素の排出係数(工場:0.571kg-CO₂/kWh)

No	項目	基準値	目標実績	2016年度	2017年度	2018年度
1)	二酸化炭素排出量の削減(総量)	2015年度実績値	目標	77,627 kg-CO ₂ (-1%)	76,843 kg-CO ₂ (-2%)	76,058 kg-CO ₂ (-3%)
		78,411 kg-CO ₂	実績	74,358 kg-CO ₂ (-5.2%)	85,616 kg-CO ₂ (+11.4%)	—
2)	廃棄物の削減(出荷個数当たり)	2015年度実績値	目標	2.355 g/個 (-0.5%)	2.343 g/個 (-1.0%)	2.331 g/個 (-1.5%)
		2.367 g/個	実績	4.662 g/個 (+97.0%)	3.599 g/個 (+52.0%)	—
3)	水使用量の維持(人数当たり)※1	2014年度以前の計画値	目標	7.578 m ³ /人数 (0%)	8.724 m ³ /人数 (15.1%)	8.724 m ³ /人数 (15.1%)
		7.578 m ³ /人数	実績	8.724 m ³ /人数 (+15.1%)	8.753 m ³ /人数 (+15.5%)	—
4)	コピー用紙使用量の維持(総量)	2015年度実績値	目標	246.93 kg (0%)	246.93 kg (0%)	246.93 kg (0%)
		246.93kg	実績	241.88 kg (-2.0%)	234.61 kg (-4.7%)	—
5)	グリーン購入の推進(古紙含有紙使用率の向上)	2015年度実績値	目標	97.0% (+0.6ポイント)	99.7% (+3.3ポイント)	99.8% (+3.4ポイント)
		96.4% (使用率)	実績	100.0% (+3.6ポイント)	98.3% (+1.9ポイント)	—
6)	化学物質使用量の維持(出荷個数当たり)・・・担当:本社工場ワーキンググループ	2015年度実績値	目標	0.6521g/個 (0%)	0.7397g/個 (+13.4%)	0.7397g/個 (+13.4%)
		0.6521g/個	実績	0.7397/個 (+13.4%)	0.7212/個 (+10.6%)	—
7)	生産工程の不良率を低減し廃棄物を削減(SOC管理の体制を維持)	2015年度不良率削減実績値	目標	0.190%	0.180%	0.170%
		0.197%	実績	0.179%	0.169%	—

2.3 相模原支店

二酸化炭素の排出係数（支店：0.505kg-CO₂/kWh）

No	項目	基準値	目標実績	2016年度	2017年度	2018年度
1)	二酸化炭素排出量の削減（総量）	2015年度実績値 9,328kg-CO ₂	目標	9,235kg-CO ₂ (-1%)	9,141kg-CO ₂ (-2%)	9,048kg-CO ₂ (-3%)
			実績	9,780kg-CO ₂ (+4.8%)	9,613kg-CO ₂ (+3.1%)	—
2)	廃棄物の削減 (出荷個数当たり)	2015年度実績値 2.318g/個	目標	2.306g/個 (-0.5%)	2.295g/個 (-1.0%)	2.283g/個 (-1.5%)
			実績	0.685g/個 (-70.4%)	5.337g/個 (+130.2%)	—
3)	水使用量の維持 (人数当たり)	2014年度以前の 目標値 11.717 m ³ /人数	目標	11.717m ³ /人数 (0%)	8.090m ³ /人数 (-31.0%)	8.090m ³ /人数 (-31.0%)
			実績	8.090 m ³ /人数 (-31.0%)	9.194 m ³ /人数 (-21.5%)	—
4)	コピー用紙使用量の維持（総量）	2015年度実績値 264.430kg	目標	264.43 kg (0%)	264.43 kg (0%)	264.43 kg (0%)
			実績	218.81 kg (-17.3%)	238.43 kg (-9.8%)	—
5)	グリーン購入の推進 (古紙含有紙 使用率の向上)	2015年度実績値 95.6% (使用率)	目標	96.0% (+0.4ポイント)	99.3% (+3.7ポイント)	99.5% (+3.9ポイント)
			実績	98.7% (+3.1ポイント)	98.9% (+3.3ポイント)	—

*1 年度は、6月～5月です。

*2 2017年度の目標は、基本的に2015年度を基準年とした3年計画の目標を達成するための2年目の目標値です。

2.4 2017年度の考察は、次の通りです。

① 二酸化炭素排出量の削減目標は未達成でした。（総量）

製造ラインが1部復活した事により、成形金型用のヒーター及び恒温槽等の設備の電力使用量が増加しました。

・2018年度(43期)の目標値は、2017年度(42期)の使用電力+43期増設設備分を加味した値とします。

② 廃棄物の削減目標は未達成でした。（出荷個数当たり）

2017年度(42期)は、6月・9月次に相模原支店、7月次に本社工場からの産業廃棄物排出が集中した事によります。

・単年度に産業廃棄物の処理が集中した事が未達成の原因と考えられる為、2018年度(43期)の目標値は、中期計画通りの2015年度(40期)実績の1.5%の削減とします。

- ③ 上水道使用量の維持目標は未達成でした。(人数当たり)
社内で使用するタオル類の洗濯の為、洗濯機を導入した事により、水使用量が増加したものと考えられます。
・2018年度(43期)の目標値は、2017年度(42期)の使用量を基準として、目標値を設定します。
- ④ コピー用紙使用量の維持目標を達成致しました。(総量)
本社工場及び相模原支店共に累計計画値を達成しました。
・2018年度(43期)の目標値は、引き続き2015年度(40期)実績の維持とします。
- ⑤ グリーン購入の推進(古紙含有紙 使用率の向上)の推進目標は未達成でした。(使用率)
累計計画値の99.5%を1ポイント下回る98.5%でした。
・2018年度(43期)の目標値は、2017年度(42期)の実績値に0.5ポイント加算した99.0%とします。
- ⑥ 化学物質使用量削減の維持目標は達成しました。(出荷個数当たり)
単月では目標値未達成も観られましたが、累計値で達成しました。
・2018年度(43期)の目標値も、2017年度(42期)と同じ目標値で、使用量の維持を図ります。
- ⑦ 自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する配慮の削減目標は達成しました。(生産工程の不良率を低減し廃棄物を削減)
・2018年度(43期)の目標値は、2017年度(42期)の目標値より0.01ポイント低減した0.17%とします。

第5章 環境経営計画の内容と環境経営計画の取組結果の評価、2018年度の取組内容

No	環境経営目標	環境経営計画の内容	結果・評価	次年度の取組内容
1	二酸化炭素排出量の削減	昼休みに照明を消灯する。 使用してない箇所の電気を消す。 昼休みにパソコンの電源をOFF。	○	継続。
2		空調の適正化(冷房28℃程度、 暖房20℃程度)の徹底。	○	継続。
3		工程、最終不良率の改善。	○	継続。
4		モールド工程(金型)予熱の消費電力の削減。	○	継続。
5		恒温槽使用の効率化	○	継続。
6		照明器具のLED化を推進	○	継続。計画が進み、次年度一部LED化が進む。
7		省エネ冷暖房設備への切り換え推進	○	継続。計画が進み、次年度一部切り替わる。

No	環境経営目標	環境経営計画の内容	結果・評価	次年度の取組内容
8	廃棄物の削減	廃プラに混在する新聞紙を分別する。	○	継続。
9		分別を推進し、銅、アルミ等の再資源化をはかる。	○	継続。
10		製品切替(RH→FH)による成形条件見直しにて、ポットに残る樹脂量を低減。	○	継続。
11		再利用段ボール箱の社内便への使用。	○	継続。
12		使用済み段ボール箱の梱包材への再利用。	○	継続。
13		梱包材等の古新聞紙を再生利用へ。	○	継続。
14	水使用量の維持	ポスターによる節水の啓蒙。	○	継続。
15		水洗トイレのタンクへペットボトルを入れ、トイレ用水を節水する。	○	継続。
16		便器(男性)の水排出時間を短くする。	○	継続。
17	コピー用紙使用量の維持	ポスターによる紙節約の啓蒙。	○	継続。
18		プロジェクター等の使用による会議資料のペーパーレス化を推進。	○	継続。
19		電子メディア等の利用によるペーパーレス化の推進。	○	継続。
20		両面コピー及び裏紙の有効利用による紙の節約。	○	継続。
21	購入品のグリーン調達	グリーン購入の推進(古紙含有紙使用率の向上)。	○	継続。
22	化学物質使用量の維持(有機溶剤使用量の削減。)	使用後のハンドラップ、小分け容器及び一斗缶の蓋を確実に締める又は覆い、蒸発を防止する。	○	継続。
23		適正な洗浄(時間、量及び方法)を行い、効率的に使用する。	○	継続。
24		使用中、廃液等の識別を明確に行い、廃液混入を防止する。	○	継続。
25	生産工程の不良率を低減し廃棄物を削減(SOC管理の体制を維持)	工程及び最終検査の不良率削減(0.18%)。	○	継続。 ISO9001 品質目標に連動

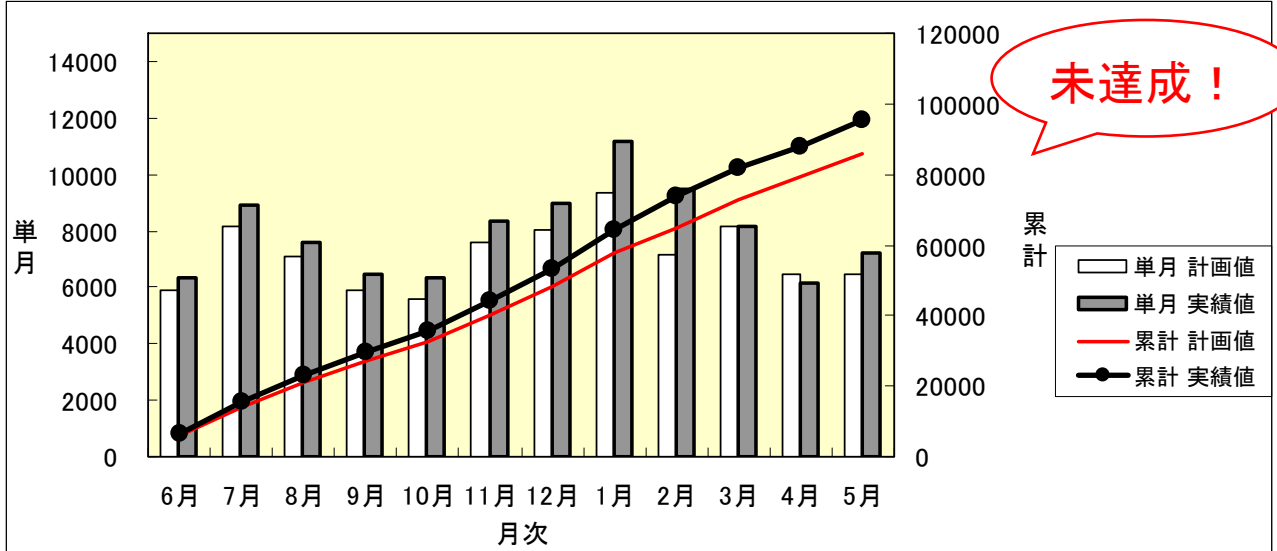
※ 結果・評価欄 凡例の説明 ○：予定通り実施
△：進捗 50%以上
×：進捗 50%以下



【2017年度 環境経営目標 達成状況グラフ】

二酸化炭素排出量の削減（総量）

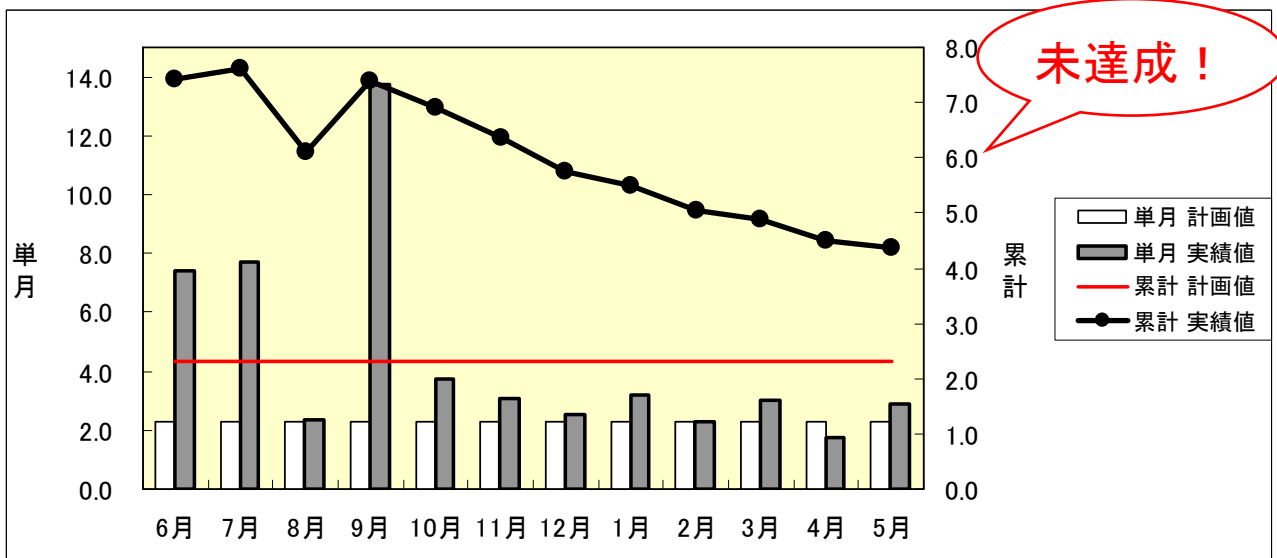
kg-CO₂



※ 2016年度(41期)より、平成27年11月30日環境省発表の「-平成26年度実績-電気事業者別排出係数」の実排出係数に基づき、本社工場は東北電力の0.571(kg-CO₂/kWh)、相模原支店は東京電力の0.505(kg-CO₂/kWh)で計算した値とします。

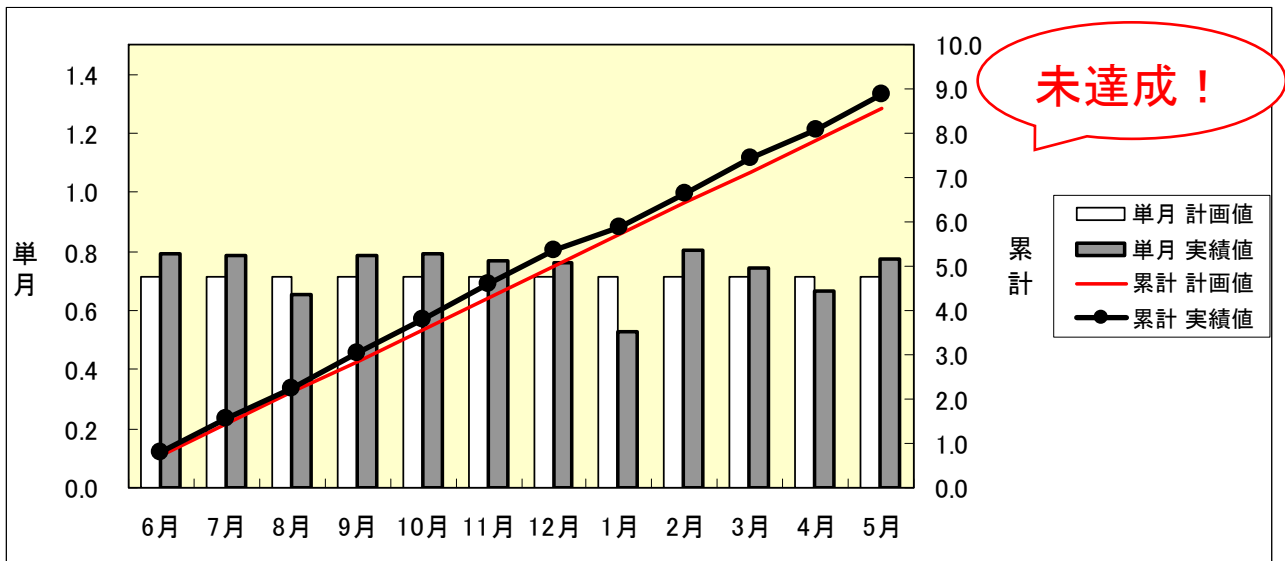
廃棄物の削減（生産個数当たり）

g/個



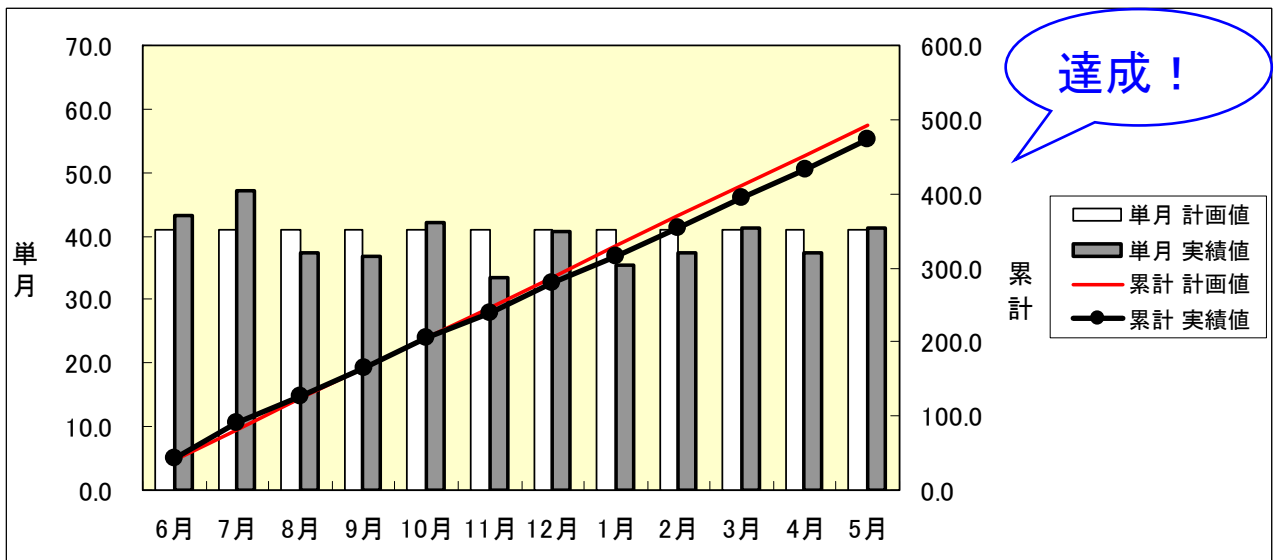
水使用量の維持(人数当たり)

m³/人数

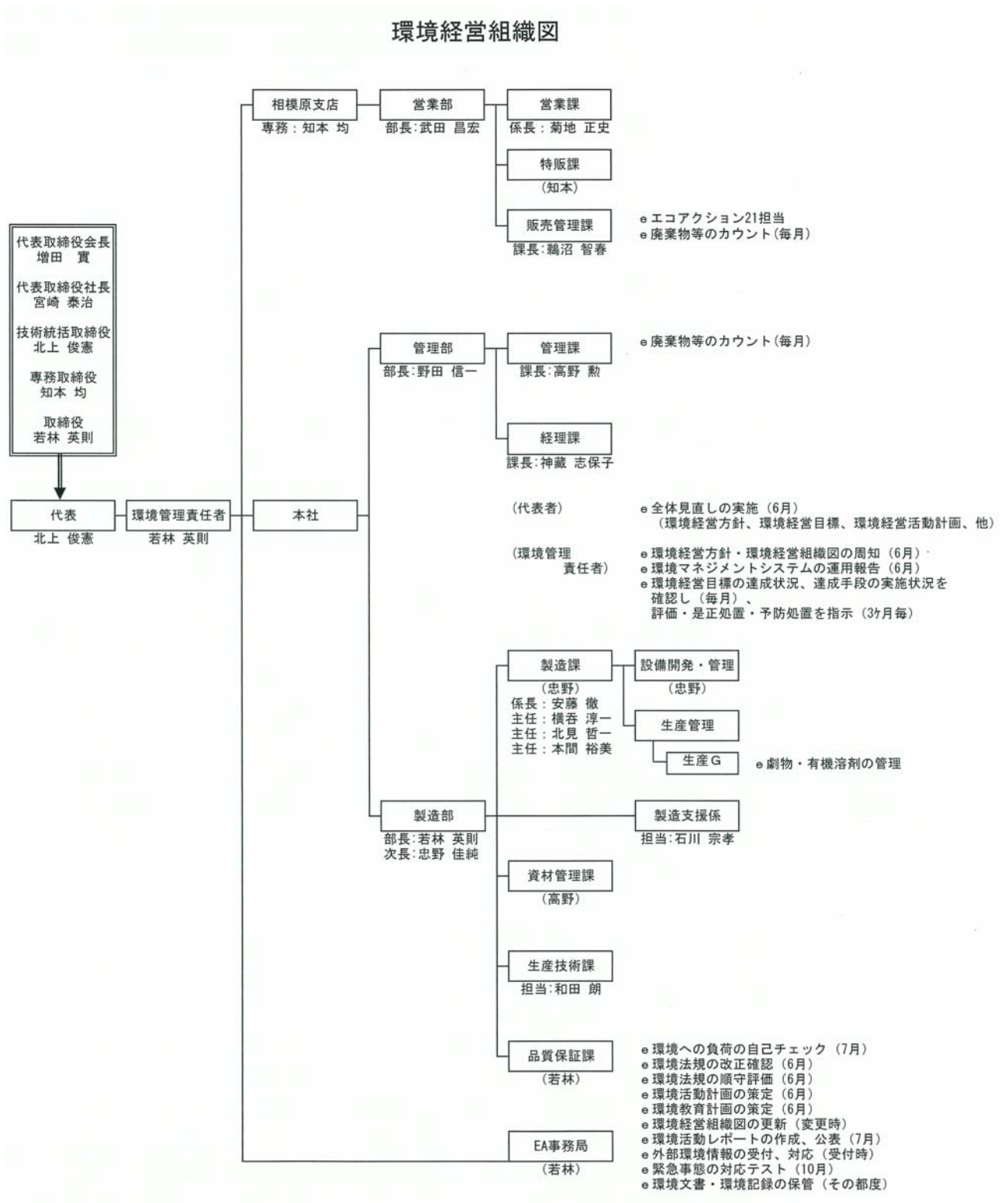


コピー用紙使用量の維持(総量)

Kg



第6章 実施体制(環境経営組織図)



第7章 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

1. 環境関連法規の順守状況を自らチェックし、違反はありません。
2. 関係当局からの違反の指摘は、過去3年間ありません。
3. 訴訟も、過去3年間ありません。

【環境関連法規一覧】

環境基本法
大気汚染防止法
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律
水質汚濁防止法
下水道法
工場立地法
騒音規制法
振動規制法
新潟県生活環境の保全等に関する条例施行規則
神奈川県生活環境の保全等に関する条例施行規則
循環型社会形成推進基本法
廃棄物の処理及び清掃に関する法律
新潟県産業廃棄物等の適正な処理の促進に関する条例
ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法
特定家庭用機器再商品化法
使用済み自動車の再資源化等に関する法律
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律
労働安全衛生法
労働安全衛生規則
有機溶剤中毒予防規則
毒物及び劇物取締法
消防法
危険物の規制に関する政令
佐渡市火災予防条例
相模原市火災予防条例
R o H S (R o H S 2) 指令

第8章 代表者による全体評価と見直しの結果

1. 全体評価

7項目中4項目で未達成となった。原因は社内生産品の増加等でやむを得ない面があり、次期は基準を見直す事や、一部照明のLED化やエアコンの入れ替え等を実施する。

2. 見直しの結果

① 環境経営方針：変更の必要なし。

② 環境経営目標：2017年度(42期)の結果から、以下の通り変更致します。

1. 二酸化炭素排出量の削減（総量）

2018年度(43期)の目標値は、2017年度(42期)目標値の11%増とする。

2. 水使用量の維持

2018年度(43期)の目標値は、2017年度(42期)の使用量を基準として、目標値を設定する。

3. グリーン購入の推進（古紙含有紙使用）

2018年度(43期)の目標値は、2017年度(42期)を基準として0.5%推進の99.0%の目標値とする。

③ 環境経営活動計画：変更の必要なし。

④ 緊急事態：変更の必要なし。

⑤ 実施体制：変更の必要なし。

⑥ その他：エコアクション21ガイドラインが2009年版から2017年版へ改訂となった。

以上